海への貢献の功績

▶海の安全確保、環境保護、汚染防止等に尽くされた功績

母なる海を守る会 …… 124

NPO 法人
黒潮実感センター …… 126

認定 NPO 法人
ふるさと東京を考える
実行委員会 …… 128

母なる海を守る会

山口県

山口県長門市で他法人や県外のNPOと連携し、日本海全域の漂着ゴミ問題を考える活動を平成20年以降行なっている。「ビーチクリーン大作戦」と銘打った漂着ごみの回収活動の実施や、産廃処理の見学や取材、地域の高校と連携し、藻場の再生活動も行なっている。平成24年度、25年度に日韓海峡海岸漂着ゴミ一斉清掃を県や同市と共同で開催し、地元企業と協働したボランティアをもてなす企画やダイビングスクールと連携した海底のごみの収集なども実施している。

（推薦者：長門市　市民福祉部　生活環境課）

会　長
島壽　一明

今回、はからずも「社会貢献者表彰」をいただきましたこと、感激にたえません。私どもが、このような喜びを得ることができましたのは、ひとえにボランティアとして参加いただいている皆様や、山口県をはじめとした行政のご指導のおかげです。本当に心から感謝を申し上げます。

せっかくの機会をいただきましたので、私たち「母なる海を守る会」の活動をご紹介します。

私たちの長門市油谷大浦地区では、平成20年から、ビーチクリーン大作戦と銘打って、大規模な海岸清掃活動を行なっています。この活動の母体となっているのが、私たち「母なる海を守る会」です。

活動の当日は、地区の住民だけでなく遠くは、鹿児島から北海道にお住まいのボランティアの方も併せて、800人の方においでいただき、漂着ごみだらけだった海岸が、たった１時間あまりで、みるみるキレイになりました。

さて、本会の発足は、平成20年７月にさかのぼりますが、これには地区内にアイ・ターンされてきた若者が、仲間の方と行なわれていた海岸清掃活動が下地にありました。彼らは、自主的に月に一度、10人ほどの仲間と海岸清掃活動を行なわれていましたが、漂着ごみの多さの前では、焼け石に水で、海岸をきれいにするまでには至らないとの悩みをもっていたところです。その状況を聞き、地区全体として、活動に取り組めないかと考えました。そうして、その若者を事務局として、地区内の若い有志によって、「母なる海を守る会」が立ち上がったところです。

それでは、この会の取り組みの内容ですが、山口県北浦海岸を美しく、自然豊かな海にするため、国定公園の海岸美を保全し、大切な自然を次世代に継承することを目的に、年１回の、海岸に漂着したごみの回収としての「ビーチクリーン大作戦」の開催のほか、森林の涵養が海の保全に繋がるという思いからの「千年の森プロジェクト」と銘打った森林保護活動などを行なっているところです。

「ビーチクリーン大作戦」については、この活動を行なうにあたり、地区の高齢化率は50％を超え、地域住民だけでの海岸清掃活動実施は困難でした。そこで、会を構成するアイ・ターン者などの発案により、インターネットなどを活用した幅広い呼掛けによるイベントの展開が企画されました。

まずは、全国的に漂着ごみの清掃活動とその研究を行なっている一般社団法人JEANと連携し、活動を行なう手法を学んだうえ、マスコミ等も利用し、第１回目のビーチクリーン大作戦を実施しました。この活動に関する報道が新しい参加者を集め、更にはSNS活用などによる広がりで、市内はもとより県内外から800人のボランティアの皆さんを集めるまでになっています。

参加した皆さんが収集したごみを手渡しで収集箇所まで運ぶ様子は、何度見ても感動的です。平成24年度の第５回からは、山口県が行なう日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃とあわせて実施され、県内大学の海外留学生も多数参加いただいています。また、参加者全員で行なわれる抽選会の景品など経費の一部や物品提供を、地元をはじめとする企業の協賛で賄うことや、行政との連携によりごみ収集のための資材準備や回収ごみの処理を行なうなど、産学公との市民協働による活動展開を図っています。本年度は、一般社団法人 JEAN 作成の環境保全啓発パネル展示も実施しました。

こうした、意識啓発の活動については、海岸漂着ごみの中でも目立っている投棄魚網や漁具について、自ら見直そうと考えた産業廃棄物の処理現場の見学や、市内市民協働シンポジウムなどでの取り組みの報告など、広範囲に行なっています。

また、資源豊かな海の再生のため、県漁協と連携した、ヒラメ稚魚の放流や、千年の森プロジェクトとして山林の涵養能力を再生するための、クヌギの林の手入れや、かぶと虫の里づくりに取り組んでいます。６年に渡る活動の継続と取り組みの拡大により、現在は長門市における海岸清掃の大イベントとなり、市民協働による海岸漂着ごみの回収活動として、他の地区にとって先駆的事例となっているものと自負しております。また、その活動は、単に環境保全のみならず、地域資源の県内外への紹介や、魅力ある地域づくりに繋がっているものと考えています。今後は、広葉樹の植樹などの森林保護活動や藻場の再生、海産資源の養育活動の取組の幅を広げ、併せて、地域において引継がれている海女文化の継承活動も行なっていきたいと考えます。

以上、私たちの取り組みについて、報告させていただきました。

今後もご支援のほど、よろしくお願いいたします。

会長　島壽　一明

▲地元の青年団

▲安倍昭恵さん挨拶

▲ボランティアの方全員に提供するためのおにぎり作り

▲ゴミを拾った後の集合です

▲ゴミの仕分け

NPO 法人　黒潮実感センター

高知県

高知県の西端部、大月町柏島（かしわじま）で、平成10年から活動を開始、平成14年にNPO法人を設立して以来、同島の海づくりに取り組んでいる。神田センター長を中心に、柏島全体を海の博物館としてとらえ（1）自然を実感する取組み（2）自然を活かした暮らしづくりのお手伝い（3）自然と暮らしを守る取組みをテーマに、人の暮らしのそばに豊かな海があり、その海を維持する持続可能な里海づくりを目標に活動を続けている。活動は地域住民、学校、行政、大学等とも連携し、地方の１つの島の活動から県へ、そして全国へと広がりを見せている。

（推薦者：公益財団法人　社会貢献支援財団）

センター長
神田　優

「社会貢献者表彰受賞にあたり」

このたびは社会貢献支援財団のご推薦により栄誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。

私たちNPO法人黒潮実感センターは、高知県の西南端にある周囲3.9km、人口450人ほどが暮らす小さな島、柏島を拠点に活動しています。

柏島の海は暖流黒潮と、瀬戸内海から豊後水道を南下してくる栄養豊富な水とが混じり合うことで、周辺海域にはその数日本一の1000種を超える魚たちや多種多様な海洋生物が生息しています。

人の暮らしのすぐそばに日本一多くの魚が気持ちよく暮らす海がある。この環境を、そして風景を残したい。その想いから私は1998年単身柏島に移り住み、2002年、NPO法人黒潮実感センターを立ち上げました。センターでは柏島の豊かな自然環境だけでなく、そこに住む人たちの暮らしも含めて、「島が丸ごと博物館（ミュージアム）」と捉え、持続可能な里海づくりを目指した活動を行なっています。

私たちが提唱する「里海」とは「人が海からの豊かな恵みを享受するだけでなく、人も海を耕し、育み、守る」を意味します。

持続可能な「里海」の実現に向けてセンターでは大きく三つの取り組みを行なっています。

一、自然を実感する取り組み

二、自然を活かした暮らしづくりのお手伝い

三、自然と暮らしを守る取り組み

自然を実感する取り組みでは、柏島の海で調査研究活動を行ない、その成果を地元住民や柏島を訪れる観光客に還元するための里海セミナーを行なっています。さらに次代を担う子どもたち向けに海の環境学習や体験実感学習を、成人向けにはエコツアーを開催し、柏島の海のすばらしさを実感して貰う取り組みを行なっています。

しかし豊かな自然環境があっても「環境だけでは飯が食えない」と言われる中で、豊かな自然環境を活用した暮らしづくりのお手伝いとして、アオリイカの増殖産卵床設置や藻場再生など「海の中の森づくり」活動を、地元漁業者やダイバー、子どもたちと一緒に行なっています。

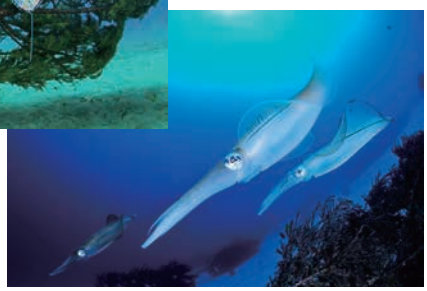
豊かな自然がありそれを利用して経済が活性化しても、一方的に海からの恵みを搾取するだけでは良い環境は残せません。そこで大事なのは自然と暮らしを守ること。この活動では自然環境の変化を把握する調査を行なったり、サンゴや藻場の保全活動、さらには大勢訪れる観光客の受け入れ態勢を整えつつ、島独自のローカルルールとしての「柏島里海憲章」を策定し、島の環境と人々の暮らしを守っていこうという取り組みを行なっています。

海からの豊かな恵みを受ける里海は、その一方で地震による津波や、台風に伴う高波、高潮等の自然災害の影響を強く受けるところでもあります。黒潮実感センターでは高知県に甚大な被害を与えうる南海トラフ大地震を想定した災害リスクマネジメントの強化にも取り組んでいます。

私たちの活動はいわばリレー走者のようなものだと思っています。今あるすばらしい柏島の環境は私たちが作ったものではありません。先祖の努力により受け継がれてきたものです。私達は現在、先祖から受けとったバトンを持って走っている状態です。私達の走りよういかんで順位を下げるかもしれないし、上げることができるかもしれません。先祖から受け継いだバトンを少しでも順位を上げて渡したい。そういう願いを込めて私達は活動を続けて参ります。今回の受賞を契機にさらに活動に邁進したいと思います。今後ともどうぞご支援のほど、よろしくお願いいたします。

センター長　神田　優

◀アオリイカの人工産卵床を海底に設置するダイバー



▶間伐材で作った人工産卵床に卵を産みに来たアオリイカ

▲底が透明なクリアカヌーで海中観察

▲サマースクールの一環　夜の海の生きもの観察

▲サマースクールの一環　透明度の高い海でのシュノーケリング

認定NPO法人　ふるさと東京を考える実行委員会

理事長
関口　雄三

東京都

昭和52年から高度成長期と共に汚染された東京湾再生の活動に取り組み始め、平成25年の７、８月土日限定で13日間、都区内では約50年ぶりとなる海水浴場を葛西海浜公園西なぎさに復活させた。会の理事長を務める関口雄三さんは葛西地区出身の建築家で、活動当初は建築関係者などの仲間と共に試行錯誤しながら各方面に働きかけをしていたが、遅々として進まない状況に「自分だけでも絶対にやり遂げる」とシンポジウムや勉強会を開催し、海水浴場を復活させよう！というムーブメントを起こして賛同者を集め06年にNPO法人化し（10年に認定NPOの認可を受ける）、「里海構想」を掲げ、二枚貝や海藻を利用した水質浄化施設設置から海水浴場設置までをフローチャートにして都や関係機関と協働して活動した結果、同22年には水遊び体験、同24年には２日間限定の海水浴を実現、同25年には念願の海水浴場復活を成し遂げた。「常設の海水浴場設置」を目指し、活動を継続している。

（推薦者：公益財団法人　社会貢献支援財団）

今回の「社会貢献者表彰」をいただく事により、多くの人たちと出会うことができました。日本中に「善行」を、日々「志」とし、精神の鍛錬を積み重ね、自ら始め、立ち上がる大切さを共に感じ、立ち上がった方々やそれに共感し、それを支え育てた仲間達が一堂に会して触れあえたことは、主催者並びに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

これからは、今回の表彰を機会に、多くの人たちに理解されるように、さらに努力をし、ひたすら次世代の子供たちの為に仲間と共に「自らのふるさとは、自らが守らねばならない」を合い言葉に行動して参ります。また今回の表彰によって、私達は勇気をいただき、振り返る機会を得ることができました。本当に有り難うございました。

ところで私がなぜ、東京湾に海水浴場を取り戻そうと考えたかを少しお話ししたいと思います。私は、20世紀は、急激な高度成長と共に、自然環境や人の生き方、価値観をも変えた世紀であったと考えています。それは都市環境に大きく反映されました。経済合理性を追求し過ぎたために、コンクリート、鉄、ガラス、アスファルトなどから構成される超高層ビル群を生み、自然と調和する生き方を手放してしまったと考えています。空気は汚れ、温暖化を生み、水は汚染され、大切な自然の時の流れを忘れ、時間に追われ、生活の中にある大切な「情緒」をどこかに置いてきてしまったのではないでしょうか。家族の絆も薄れてきました。

21世紀は、「再生の世紀」にしなければなりません。永遠に大切なものである「水」を決して汚してはいけないのです。それを失ってまで便利さを求めてはいけないのです。そうしないと大きな「負の財産」を世界中の次世代の子供に残す事になります。自らの手で子供の頃味わった、あの海の気持ちよい陽射し、そして身にまとう水の気持ちよさ、友だちと遊び学んだあの環境を何があっても取り戻さなければ子供たちに

申し訳ないのです。行動しなければ、ある意味で私達は存在の意味を失います。

私は、これまで多くの人と出会い、「東京湾での海水浴の復活」を訴えてきました。最初は誰も本気にしてくれず、孤独な戦いでした。しかし、今では多くの同志を得ました。その経験の中で、私は、神仏にも頼らず、自分のこととして受け止めて自らが先に立ち、行動すること以外に道はないと感じました。東京湾での海水浴場の復活、さらにはそれを世界中の都市部の海にも広げていくという目標に向かって今まで同様、同志と共に一歩一歩、楽しみながら進んで参ります。

理事長　関口　雄三

▲海水浴客で賑わう西なぎさ

▲のりの養殖をしています

▲海開きのテープカット

▲実に50年ぶりです

▲べか船

年度別表彰分野・受賞者数の実績

年／回 分野	1回 昭46	2回 47	3回 48	4回 49	5回 50	6回 51	7回 52	8回 53	9回 54	10回 55	小計
人命救助等	93	203	156	157	213	197	235	255	230	183	1922
国際社会への貢献											0
青少年育成・スポーツの振興	14	21	33	101	111	95	97	81	75	76	704
社会福祉への貢献	62	58	82	149	140	200	149	114	102	119	1175
文化の振興				3	7	11	5	9	11	11	57
地域社会への貢献	14	18	12	14	26	19	20	15	12	14	164
運輸交通への貢献	23	15	16	24		43	66	57	55	52	351
その他	34	35	87	97	114	95	105	135	139	105	946
小計	240	350	386	545	611	660	677	666	624	560	5319
開催日	3/23	11/10	10/26	9/26	12/10	11/5	11/8	11/7	11/7	11/21	
式典会場	①ホテルニューオータニ				②笹川記念会館						

年／回 分野	11回 昭56	12回 57	13回 58	14回 59	15回 60	16回 61	17回 62	18回 63	19回 平元	20回 2	小計
人命救助等	195	208	177	198	274	193	106	127	89	98	1665
国際社会への貢献										19	19
青少年育成・スポーツの振興	81	93	89	78	92	117	22	24	26	26	648
社会福祉への貢献	95	112	124	109	104	103	38	38	46	57	826
文化の振興	16	13	17	20	19	12	9	7	13	8	134
地域社会への貢献	15	12	12	15	8	13		3	7	11	96
運輸交通への貢献	42	40	38	45	35	31	55	54	69	76	485
その他	96	95	104	94	86	56	57	48	39	10	685
小計	540	573	561	559	618	525	287	301	289	305	4558
開催日	11/5	11/30	11/16	11/6	11/20	11/21	11/10	11/8	11/8	10/9	
式典会場	②笹川記念会館										

年／回 分野	21回 平3	22回 4	23回 5	24回 6	25回 7	26回 8	27回 9	28回 10		小計	受賞者合計
人命救助等	101	82	34	15	47	21	27	16		343	3930
国際社会への貢献	13	17	14	4	8	5	5	6		72	91
青少年育成・スポーツの振興	40	54	44	29	22	25	28	32		274	1626
社会福祉への貢献	64	75	68	28	36	37	34	42		384	2385
文化の振興	11	15	10	3	8	10	10	12		79	270
地域社会への貢献	12	9	4	7	14	20	19	19		104	364
運輸交通への貢献	83	80	49	18	14	18	16	20		298	1134
その他	13	7	7	0	0	0	0	0		27	1658
小計	337	339	230	104	149	136	139	147		1581	11458
開催日	11/7	11/5	11/1	11/7	11/1	11/12	11/13	11/9			
式典会場	②笹川記念会館		③ホテル海洋			④東京全日空ホテル					

年／回 分野	29回 平11	30回 12	31回 13	32回 14	33回 15	34回 16	35回 17	36回 18		小計	受賞者合計
第一部門 緊急時の功績	6	5	6	8	5	4	5	2		41	
第二部門 多年にわたる功労	14	15	11	12	13	11	11	18		105	
第三部門 特定分野の功績		4	7	8	8	11	9	9		56	
（海の貢献賞）			2	1	3	3	4	2		15	
（国際協力）		2	2	1	0	2	0	0		7	
（ハッピーファミリー）		0	0	2	1	3	1	2		9	
（21世紀若者）		2	3	4	4	3	4	5		25	
こども読書推進賞					3	3	3	3		12	
小　計	20	24	24	28	29	29	28	32		214	11672
開催日	11/10	11/22	10/29	11/19	11/ 4	11/15	11/16	11/20			
式典会場	④	①	④東京全日空ホテル								

※平成11年度より一般からの個人推薦を受付。
平成11年度より表彰分野別功績内容を、部門別功績内容とする。
平成12年度より第三部門を新設、テーマを持った特定の功績に対応する。
平成15年度よりこども読書推進賞を新設。

年／回 分野	37回 平19	38回 20	39回 21	40回 22	41回 23	42回 24	43回 25	44回 26		小計	受賞者合計
人命救助の功績	9	13	11	11	8		3	9		64	
社会貢献の功績	33	35	34	34	39		36	35		246	
特定分野の功績 （海の貢献賞）	1	2	3	5	2		2	0		15	
※海への貢献の功績								3		3	
こども読書推進賞 ※表彰式：6／26 会場：虎ノ門パストラル	1									1	
東日本大震災における貢献者表彰 ※表彰式：5／1 帝国ホテル						128	12			140	
小　計	44	50	48	50	49	128	53	47		469	12141
開催日	11/13	11/17	11/24	11/16	11/21	5／1	11/25	12/ 1			
式典会場	④ ANA インターコンチネンタルホテル				⑤帝国ホテル						
											12141

※平成19年度より分野名を変更。こども読書推進賞は最終回。
※平成24年度は東日本大震災における貢献者を表彰。
※平成26年度より特定分野の功績（海の貢献賞）は海への貢献の功績に変更。

都道府県別受賞者内訳

県　名	平成25年度までの累計	平成26年度の受賞者	受賞者数
北海道	641	2	643
青森県	179	1	180
岩手県	211		211
宮城県	372	4	376
秋田県	123		123
山形県	152		152
福島県	175		175
茨城県	194		194
栃木県	145		145
群馬県	242		242
埼玉県	461	1	462
千葉県	393	2	395
東京都	1,130	6	1136
神奈川県	611	1	612
新潟県	254	3	257
富山県	143		143
石川県	143		143
福井県	204		204
山梨県	132		132
長野県	197		197
岐阜県	211	1	212
静岡県	309		309
愛知県	300	3	303
三重県	163		163
滋賀県	98		98

県　名	平成25年度までの累計	平成26年度の受賞者	受賞者数
京都府	197	2	199
大阪府	474	2	476
兵庫県	501	3	504
奈良県	111		111
和歌山県	142		142
鳥取県	90		90
島根県	111		111
岡山県	305		305
広島県	405	2	407
山口県	271	1	272
徳島県	174		174
香川県	194	1	195
愛媛県	150		150
高知県	71	1	72
福岡県	534	3	537
佐賀県	120	2	122
長崎県	268		268
熊本県	224	2	226
大分県	125		125
宮崎県	71		71
鹿児島県	139		139
沖縄県	155	2	157
その他	79	2	81
合　計	12,094	47	12,141

※受賞者数は、当財団設立の昭和46年からの都道府県別受賞者件数の累計。

※県名は、受賞者居住地の都道府県名。その他は居住地が海外。

※受賞者数は、こども読書推進賞受賞者、東日本大震災における貢献者表彰受賞者も含めての累計

役員・評議員一覧

平成26年12月１日現在

会　　長	安倍昭恵	内閣総理大臣夫人
副会長	内館牧子	脚本家
理　　事	永嶋久子	株式会社 資生堂　元取締役
理　　事	三谷　充	三谷産業株式会社　代表取締役会長
理　　事	屋山太郎	政治評論家
専務理事	天城　一	公益財団法人 社会貢献支援財団
監　　事	篠原由宏	篠原法律会計事務所、弁護士
監　　事	渡邉一利	公益財団法人　笹川スポーツ財団　専務理事
評議員	石井宏治	株式会社石井鐵工所　取締役社長
評議員	尾島俊雄	銀座尾島研究室　主宰
評議員	久米信行	久米繊維工業株式会社　取締役会長
評議員	今　義男	一般財団法人　シップ・アンド・オーシャン財団 （海洋政策研究財団）　理事長
評議員	重村智計	早稲田大学　国際教養学部　教授
評議員	中島健一郎	株式会社 ACORN　代表取締役
評議員	広渡英治	公益財団法人　日本吟剣詩舞振興会 専務理事兼事務局長

公益財団法人　社会貢献支援財団

設　　立：1971年5月1日
所 在 地：東京都港区西新橋1-18-6　クロスオフィス内幸町801
郵便番号：〒105-0003
Ｔ Ｅ Ｌ：03-3502-0910
Ｆ Ａ Ｘ：03-3502-7190
Ｕ Ｒ Ｌ：http://www.fesco.or.jp

社会貢献者の記録

2015年3月20日

発行者：公益財団法人　社会貢献支援財団
Published by Foundation for Encouragement of Social Contribution (FESCO)
http://www.fesco.or.jp

印刷：ヨシダ印刷株式会社

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION